



## 明治150年 米の流通に関するアーカイブ

公益社団法人米穀安定供給確保支援機構

カテゴリ

生産

- 【資料名】 双用犁(松山式甲型)  
【年代・来歴】  
【寸法】 犁身長 140cm  
【保存状態】 概ね良好

【画像】



### 【略説明】

双用犁は往耕と復耕とで土壟の反転方向を変えることで、常に同一方向に土を返転させることができることから耕耘の省力を図ることができた。双用犁は明治34年(1901年)の松山原造(長野県)の発明によるもので、耕耘技術の飛躍的発展をもたらした。

### 【注記】

東京農工大学農学部は、明治期初期から昭和30年代までの間に使われたさまざまな形式の畜力農機具100点あまりを収蔵しており、その資料群は産業考古学会選定「日本の産業遺産300選」に選定されている。

なお上記の略説明については、東京農工大学名誉教授 下田博之博士の著書「図説 畜力農機具発達史(1995年6月)」を基にしている。

- 【所蔵機関】 東京農工大学農学部  
【住所】 東京都府中市幸町3-5-8  
【連絡先電話番号】 042-367-5654(農学部総務室)  
【所蔵URL】 <http://www.tuat.ac.jp/>  
【閲覧】 要相談

【このページの問い合わせ先:公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 03(4334)2161】